

古河にしかない歴史や文化を 守り、次代へつなげていきたい



お休み処 坂長
館長 金子典子さん



篆刻体験指導員
桃城印会会長 北野芳男さん

古 河城の出城界限に古くからある建物をリニューアルし、市民の憩いの場や観光客の回遊拠点として活用しているお休み処坂長。4月から坂長の館長に就任した金子さん。そのきっかけは、古河のまちなかを多くの人々が歩くにぎわいある風景を取り戻すために、自分が今まで培ってきた経験を少しでも生かしたいという思いを強く感じたことでした。

多くの人に古河のまち歩きをしてもらいたいと思い、友人と一緒に4年前から継続的に開催している蚤の市「トロマル」。毎回、他県から数万人が集まるイベントを開催して気が付いたのは、その日多くの人が集まっても、次の日までそのにぎわいを継続させることが難しいという現実でした。

篆 刻は、決められた方寸(四角)の中で自己表現をする芸術であり、ただ印章を作るだけのものではありません。「方寸の世界に遊ぶ」といった篆刻ならではの奥深さがあると言われています。篆刻がまちの文化として息づく古河。そこには、日本で唯一の篆刻美術館があること、そして、篆刻の第一人者である生井子華の出身地であることが大きく影響しています。

た講座の第1期生。篆刻の奥深さに魅せられ、講座の卒業メンバーと共に河野氏の協力を得て自主講座として「桃城印会」を立ち上げ、勉強会や篆刻文化の普及活動に取り組んでいます。現在は、篆刻美術館の事業に協力し、篆刻体験や市内小中学校の卒業篆刻体験の指導を行うなど、師事する河野氏に代わって奔走している姿が印象的です。

「頑張る人の背中をそっと押せる存在に」



▲2階の和室がシェアスペースとして利用されます。歴史を感じる空間で影を落とす創造の世界はいつも以上に広がるかもしれません

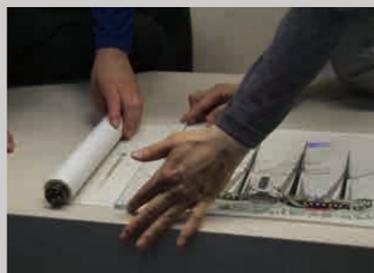
る可能性をプラスする蔵Ⅱ「足す蔵」Ⅱ「十蔵」タスグラ」と題し、フリーWi-Fi(無線LAN)を活用したシェアスペースの開設や市民の「やりたい」思いを実現するワークショップ等を企画・実施しています。

篆刻に興味を持った人たちが体験を通してより好きになるように、丁寧な指導を心掛けています。「やってみたい楽しかった」「今度は講座でしっかりと勉強してみたい」と話す体験者が数多くいるのは、北野さんを含めた桃城印会の仲間の思いがしっかりと伝わっているからだと感じます。



▲桃城印会は、河野氏の教え子の山本晃一氏(帝京大学講師)を招き勉強会を行っています。自身の作品をもとに指導を受ける表情は真剣そのものです

普段は見られない企画展の裏側
博物館でいつも見ている展示物がどのように展示されているか知っていますか。そこには、学芸員の知識と経験、そして文化財にかける思いが込められています。



▲国指定重要文化財の取り扱いには慎重に



▲文化財を汚さぬようマスクを着用しての作業



▲虫・カビなどの生物被害がないように掃除



▲作品のキャプションを展示会ごとに製作



▲資料の状態を確認しながら、展示内容を検討